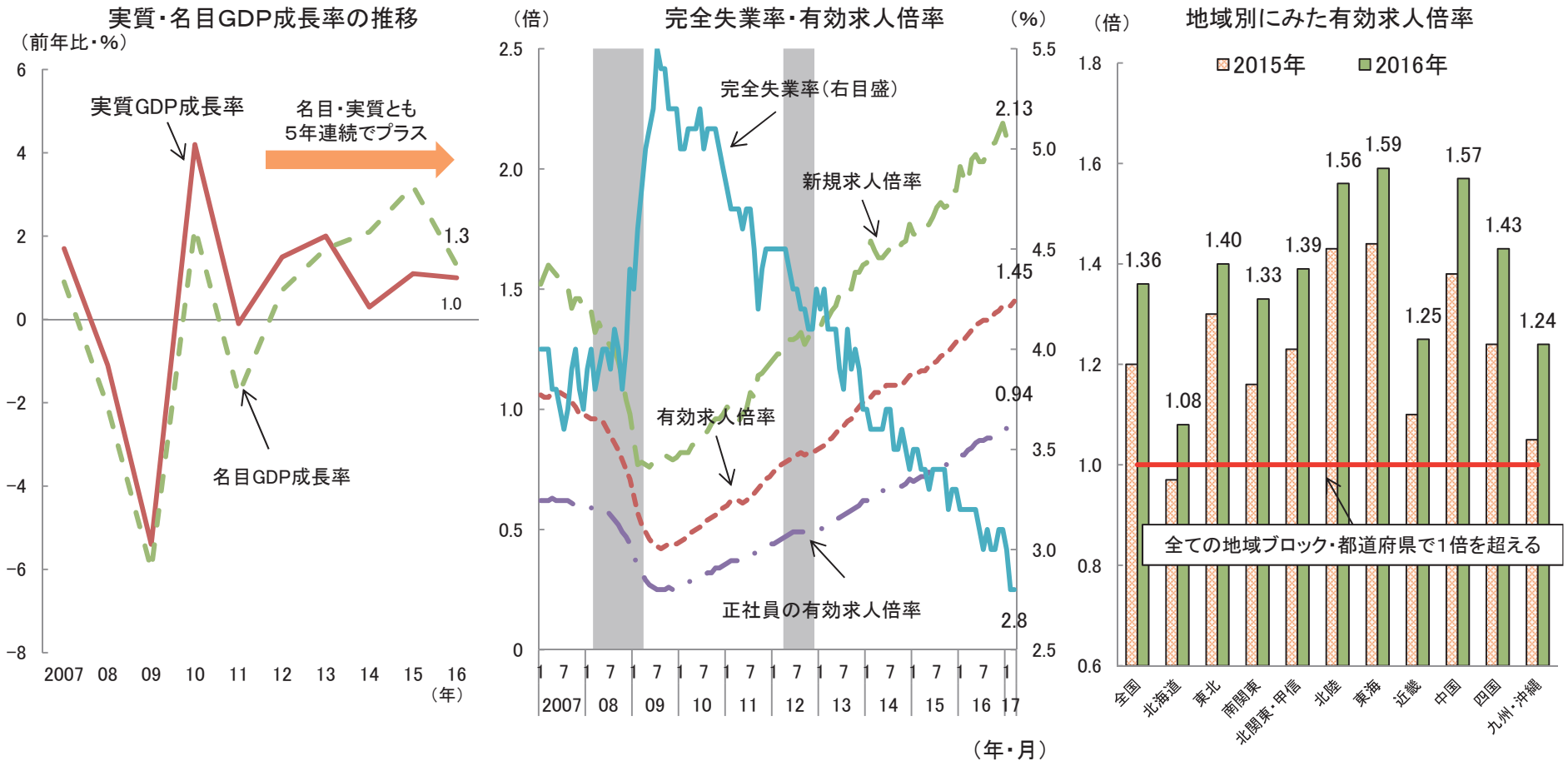


第 I 部 労働経済の推移と特徴

－雇用情勢の動向①－

- 我が国経済は緩やかな回復が続く中、2016年度平均で完全失業率は3.0%と1994年度以来22年ぶりの低水準、有効求人倍率は1.39倍と1990年度以来26年ぶりの高水準となるなど、雇用情勢は着実に改善した。
- 地域別の有効求人倍率をみると、全ての地域ブロックで上昇し、全都道府県で1倍を超える水準まで上昇した。

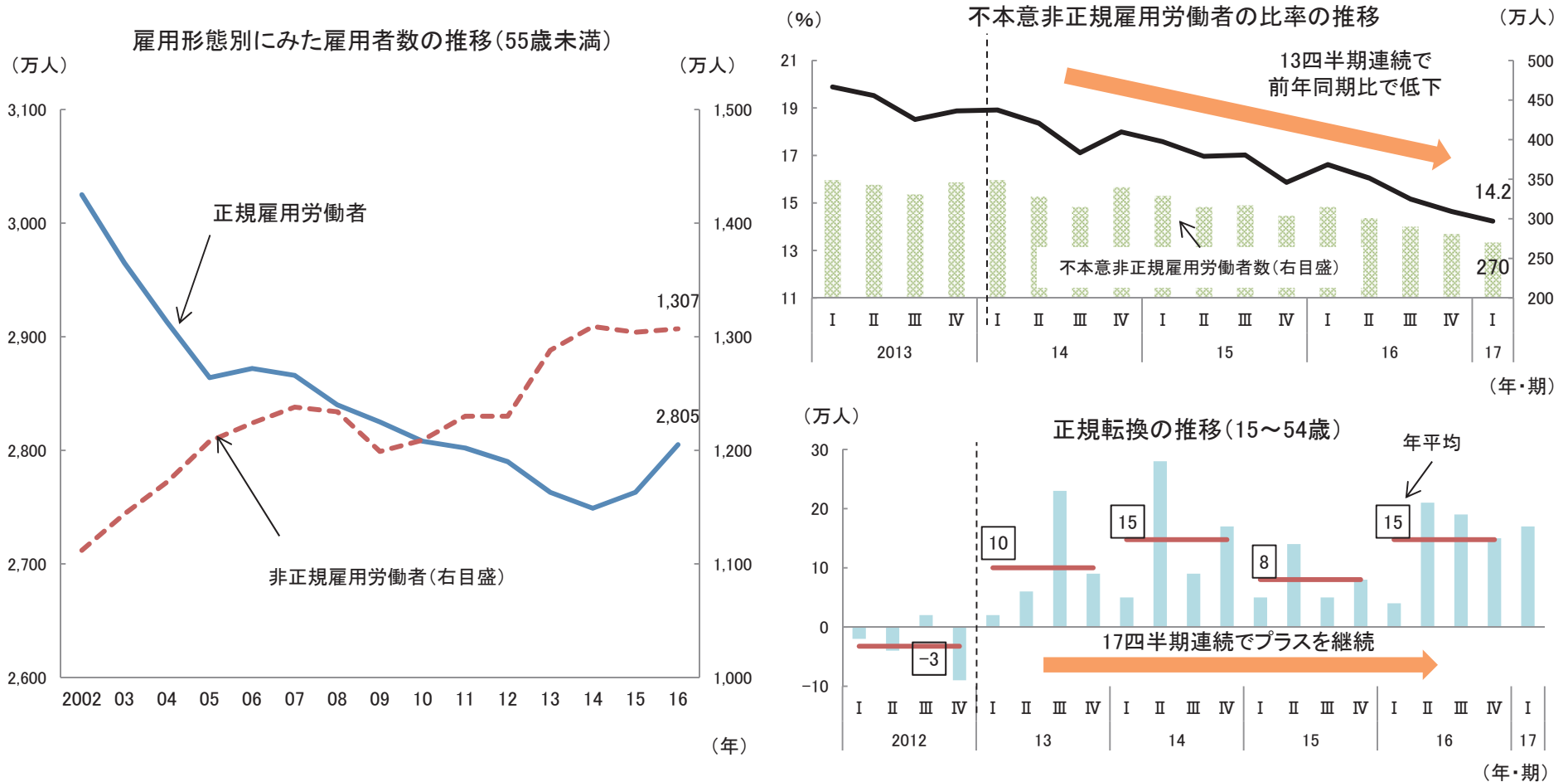


資料出所 厚生労働省「職業安定業務統計」(中図・右図)、内閣府「国民経済計算」(左図)、総務省統計局「労働力調査」(中図)より作成

第 I 部 労働経済の推移と特徴

－雇用情勢の動向②－

- 55歳未満でみると、正規雇用労働者は2年連続で増加しており、2016年は非正規雇用労働者の増加幅を上回って増加し、2,805万人となった。
- 不本意非正規雇用労働者の比率は前年同期比で13四半期連続で減少しており、非正規雇用から正規雇用への転換は2013年1～3月期以降17四半期連続で増加している。



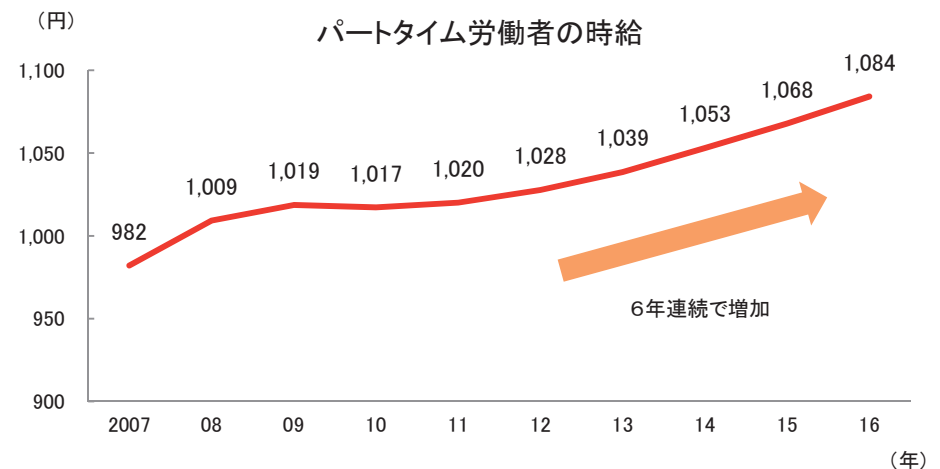
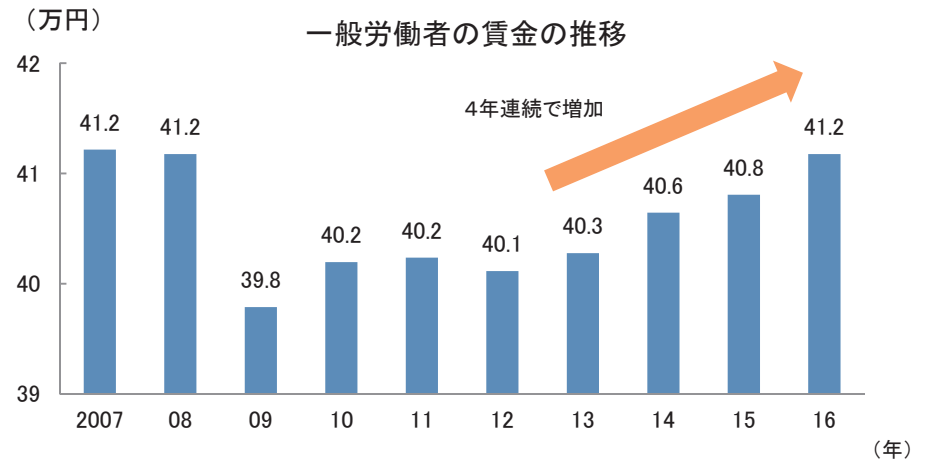
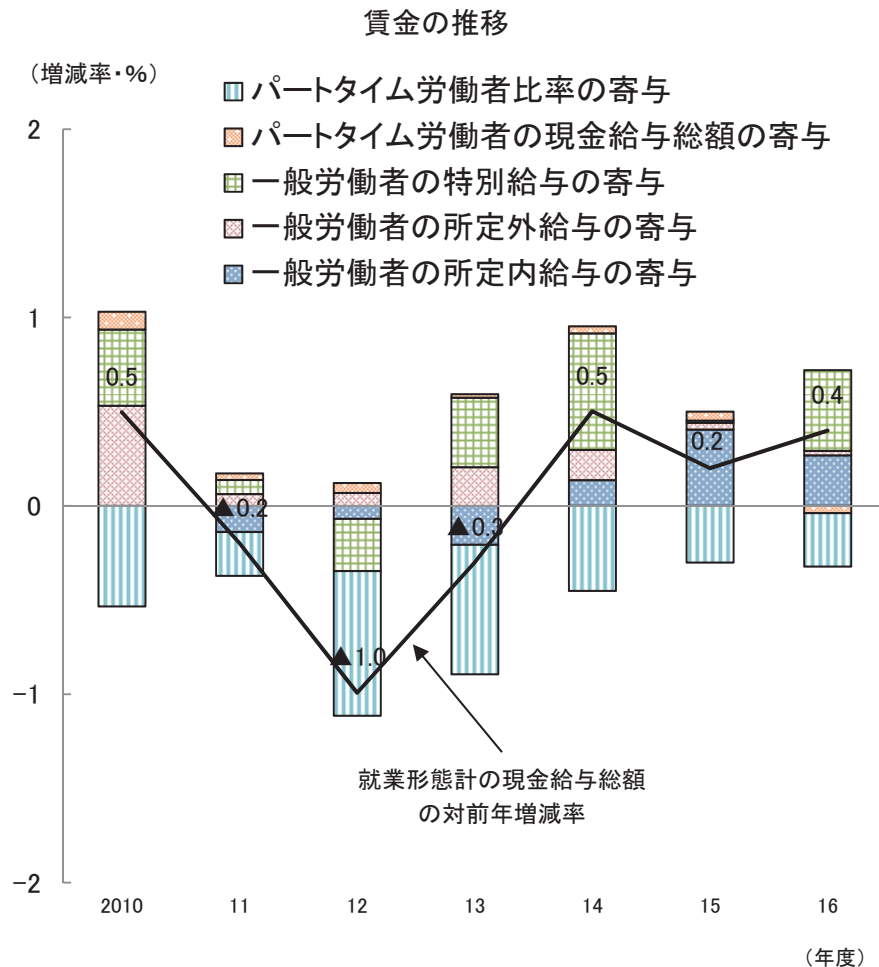
資料出所 総務省統計局「労働力調査」(左図)「労働力調査(詳細集計)」(右上図・右下図)より作成

(注) 右下図の「正規転換」は、「非正規雇用から正規雇用へ転換した者の数」から「正規雇用から非正規雇用へ転換した者の数」を差し引いた数

第 I 部 労働経済の推移と特徴

－賃金の動向－

- 2016年度の名目賃金は、一般労働者の所定内給与の増加が寄与したことなどにより3年連続の増加となった。
- 一般労働者の名目賃金は2013年以降4年連続で増加している。
- パートタイム労働者の時給も2011年以降6年連続で増加しており、2010年から67円増加して1,084円となった。



資料出所 厚生労働省「毎月勤労統計調査」より作成